

大阪湾の磯の生き物観察シート

No.14 イソギンチャクの活動と潮しおの満ち引きを見てみよう



潮しおの引いた場所の岩や石ころに、ぷるんとしたゼリーのようなものがくっついていきます(写真上3枚)。図鑑にも見当たらないし、ひょっとして大発見??いえいえ、実はこれ、色々なイソギンチャクが、干潮かんちょうの時間をすごしているところなのです。

イソギンチャクの仲間は水中では触手をのばして花しよくしゅのようなすがたをしています(写真下2枚)、潮が引くと触手を引っ込めて口をすぼめます。表面積を小さくして体が乾くのを防いでいるのです。小石や貝殻の破片で体表をカバーする種もいます。

すぼんでいるイソギンチャクをつつくと、敵から身を守ろうと水を吹き出すこともあります。体の中の水分みづがへると干からびてしまう危険があるので、潮が満ち始めてから水に近い場所のイソギンチャクを探して試してみてくださいね。

写真上左：貝殻へん片をつけたヨロイイソギンチャク。岩のすきまは比較的乾きにくい。*1

写真上中：ウメボシイソギンチャク。かなり乾燥に強く、岩の表面にも多い。*2

写真上右：小石の表面についたヒメイソギンチャク。転石の裏でもよく見つかる。*1

写真下左：水中で触手をのばしたミドリイソギンチャク。餌が来るのを待っている。*2

写真下右：ベリルイソギンチャクが触手でダイナンギンポとを捕らえたところ。*3

<写真撮影 ※1：大谷 道夫、※2：渡部 哲也、※3：石田 惣>